令和7年2月吉日

保護者 様

玉野市立八浜中学校
校長 児山 幸

「令和6年度教育活動についてのアンケート」の最終報告について

余寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より、本校教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、今年度の7月と12月にはお忙しい中「教育活動についてのアンケート」にご協力いただき大変ありがとうございました。このアンケートは、本校の教育活動を学校（教職員）だけでなく、全生徒や全保護者の方々にも診断していただき、その改善に役立てるために実施しております。結果のまとめをお送りしますので、ご一読ください。

別表のアンケート結果には、それぞれの項目についての回答のうち、「4：よく当てはまる」及び「3：当てはまる」を肯定的なご意見ととらえ、その割合を掲載させていただきました。また、各項目で80%を超えるものを『よくできている』・80%未満～70%を『まずまずできている』と考え、逆に70%未満～60%を『努力を要する』・60%未満のものを『特に努力しなければならない』ものと考えております。

○生徒集団の中で意識が変化した生徒が増え、向上したと考えられる項目が以下の3つです。
(生徒肯定率が1学期から大きく上昇をした。)

項目 7	「授業や家庭学習でタブレットを使って意欲的に学習できている。」
	肯定率 +6% 1学期 69% → 2学期 75%
項目 2 2	「きちんとした服装や身だしなみで学校生活を送ることができている。」
	肯定率 +6% 1学期 89% → 2学期 94%
項目 2 6 (3)	「進取の気質を持ち、果敢に挑戦することができる。」
	肯定率 +8% 1学期 73% → 2学期 81%

項目7（タブレットの活用）は、学校をあげて取り組んでいます。教職員もより効果的な利用方法を検討し、発展させているので、肯定率80%以上を目指します。

項目2 2（身だしなみ・学校生活）について、本校では普段の学校生活での服装や校則について、季節や気候に応じて柔軟に対応する「八浜スタイル」を作成しています。場面に応じて生徒自身が身だしなみを判断できるように継続指導していきます。

項目2 6 (3)（教育目標に対する取組：進取）は、毎年肯定率が低く、課題となっています。今年度は年度当初より「前向きに挑戦する」をキーワードにして生徒に呼びかけをしてきました。今回のアンケートでも保護者、教職員の肯定率は低いですが、生徒の肯定率アップは成果として捉え、今後に活かしていきたいです。

○生徒集団の中で意識の変化しつつあると考えられる項目が以下の2つです。
(生徒肯定率が1学期から4%の上昇をした。)

項目 1 5	「道徳や特別活動・総合的な学習の時間により、人権を尊重する意識を高めることができた。」
	肯定率 +4% 1学期 87% → 2学期 91%
項目 2 3	「テレビやゲーム、スマートフォンなどをルールを決めて使っている。」
	肯定率 +4% 1学期 67% → 2学期 71%

項目1 5（人権意識）について、今年度は人権教育講演会と人権集会を別の時期に実施しました。「人権」について考える機会が増えたことで、年間を通して人権に関わる学習ができていたと考えます。この項目は生徒の肯定率と保護者・教職員の肯定率に大きな差がある項目なので、より高い人権感覚・人権意識が身に付くように指導していきたいです。

項目2 3（メディア利用について）は、本校の継続的な課題です学校としてもタブレット利用と並行して力を入れて指導をしている部分なので、取組を継続させたいです。

●特に本年度（中間期）の課題であり、今回も向上しなかった項目が以下の2項目です。

項目4 「宿題・予習・復習など家庭学習はきちんと取り組んでいる。」
生徒肯定率 -16% 1学期 69% → 2学期 53%

今年度は、学校全体の取組として、翌日または次回の授業までにすべき課題（短期課題）と学習内容（単元）の学習期間中に、自分の理解度に合わせて自主的に進めていく課題（長期課題）を設定しました。個に応じた学習ができる一方で、個々の計画性や自主性が必要となり、家庭学習が習慣化されていない生徒が出てきた結果、肯定率が下がったのではないかと分析しています。この結果に連動して、保護者の同一項目「子どもの家庭学習の習慣化を図っている」の肯定率も低く、変化が見られません。保護者肯定率（1学期60%→2学期60%）。学習方法の変化に伴い、課題の出し方も変化し、同時に生徒自身の自己管理能力の必要性も高まってきています。学校として、計画の立て方や時間の使い方の指導を強化します。各家庭での声かけやサポートもお願いしたいです。

項目24 「学級や学年通信・学校だよりなどを忘れず保護者に見せている。」
生徒肯定率 +2% 1学期 62% → 2学期 64%

この項目も毎年課題としてあげられるものです。また、毎年の傾向として、生徒の肯定率が低いに対して、保護者・教員の肯定率は低くないという結果です。要因として、生徒の「見せるべきもの」と保護者・教職員の「見せるべきもの」の認識の差が考えられます。今年度はメール配信やホームページを利用してのお知らせを併用しました。これからも電子配信を利用しながら、必要なお知らせや情報が確実に保護者に伝わるようにしていきたいです。

●アンケート結果(保護者) から見られる課題

項目2 (授業の内容・教え方)	肯定率	生徒	85%	保護者	70%
項目3 (個別の指導)	肯定率	生徒	84%	保護者	60%
項目6 (情報モラル指導)	肯定率	生徒	92%	保護者	70%
項目23 (ゲーム・スマホのルールづくり)	肯定率	生徒	71%	保護者	54%

生徒の肯定率と保護者の肯定率に大きな差が見られました。これは保護者の視点からの指導に対する期待値と考えます。生徒のさらなる成長を目指して、継続的・発展的な指導を目指したいです。一方で、生徒への取組や生徒の成長が十分に保護者に伝わっていないことも考えられます。生徒の成長・課題を保護者と共有することが、より効果的な指導につながるので、保護者との連絡・連携を重視することを念頭に組みたいです。

来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

項目9（基本的な生活）、項目10（きまりを守る）、項目12（保護者の相談対応）、項目14（楽しい学校生活）の4項目は、今年度前期において、高い肯定率だった項目である。この4項目は、三者の平均値80%以上を維持し、年間を通して良かったと言える評価でした。

複数の項目において、生徒・保護者・教職員の評価にばらつきが見られましたが、「進取の気持ち、果敢に挑戦する気持ち」に関する生徒の肯定率が大きく向上したことは、特出すべきことと捉えています。生徒の活動が活発になると、それに伴って新たな課題が出てくることもあります。保護者・教職員において、前期からの肯定率が下がっている部分については、その不安や課題が要因ではないかと考えていますが、「前向きな課題」と捉え、「自分で考えて行動できる生徒」を育成していきたいです。

○記述のご意見について

本校生徒や学校の良い点、改善点について、両面のご意見を数多くいただきました。学校では、個別のご意見も参考に、より良い指導や個に応じた指導ができるように工夫し、改善策を講じていきたいと考えています。ありがとうございました。